

## 令和3年度 FD・SD ウィークの実施結果について（報告）

高知大学大学教育創造センター

### 1. FD・SD ウィークの趣旨と目標

【趣旨】教育改善に関する教職員の意識改革の一環として、従来の相互授業参観を見直し、各学部等5授業程度を選んで公開授業とし、授業参観の機会を増やす。これによって

- (1) 授業公開者の授業改善を行う。
- (2) 授業参観を通じて参観する側の教員が授業についての内省を通じた教育改善を図る。
- (3) オンライン授業に関するFDを兼ねるものとする。

#### 【目標】

##### (1) 授業公開教員

参観者から得たフィードバックをもとに、次年度以降の授業改善を行う。

##### (2) 授業参観教員

参観した授業から得られた気づきや新たな教授法などを参観者が内省し、自らの授業改善・教育改善に活かしていく。

##### (3) 職員

公開授業を参観することで、本学が行う教育の一端に触れ、日常の業務に反映させていく。

### 2. 実施期間と開講科目数

期 間：令和3年6月3日（木）～令和3年7月30日（金）

科目数：37科目（延べ61回開講 ※非同期のオンライン授業は1回として集計）

### 3. 参加者数（参観申込者数、授業参観記録登録者数）

本年度の、FD・SD ウィークの授業参観は、Web ページ上の集計で教職員合わせて延べ129人（教員68人、職員61人）の申し込みがあり、参観後の授業参観記録登録者数は延べ103人（教員47人、職員56人）であった。（昨年度実績：申込者170人（教員86人、職員84人）、授業参観記録登録者141人（教員70人、職員71人））

科目ごとの参観申込者数及びコメント登録者数（延べ人数）

No.	時間割 コード	科目名	授業形態	参観申込者数			コメント登録者数		
				教員	職員	計	教員	職員	計
1	02007	音楽解剖学入門	オンライン同期型	3	1	4	2	1	3
2	02019	日本の古典文学入門	オンライン非同期型	2	1	3	2	1	3
3	03051	よさこい概論	オンライン非同期型	10	9	19	8	8	16
4	07001	地域キャリア論	オンライン非同期型	5	10	15	3	10	13
5	07152	大学生活入門	オンライン非同期型	1		1	1		1
6	07160	ピアサポート理論と実践	オンライン非同期型	1	2	3		1	1
7	25035	経営学概論	オンライン非同期型	2	1	3	1	1	2
8	26136	西洋文化史Ⅰ	オンライン同期型		1	1		1	1
9	26137	西洋文化史Ⅱ	オンライン非同期型		1	1		1	1
10	27037	メディア論	オンライン非同期型	2		2	1		1
11	27067	アジア経済社会論	オンライン非同期型	2		2	1		1
12	28068	政治過程論	オンライン非同期型	2	1	3	1	1	2
13	42206	幾何概説	オンライン同期型	3		3			
14	42819	保育学	オンライン同期型	3	1	4	3	1	4
15	49011	生徒指導・進路指導	オンライン非同期型	3	4	7	3	4	7
16	51103	医科物理学Ⅰ	オンライン同期型 オンライン非同期型	1	2	3		1	1
17	51300	統合医学Ⅲ	オンライン同期型	1		1	1		1
18	51446	救急医学総論	オンライン非同期型	2	8	10	1	7	8
19	52101	基礎看護学概論Ⅰ(演)	オンライン非同期型		1	1		1	1
20	52302	病態と治療	オンライン同期型	2		2			
21	52305	疫学	オンライン非同期型	2	3	5	1	3	4
22	60001	地域協働論	オンライン非同期型	1		1	1		1
23	60039	経営組織論	オンライン同期型	2		2	1		1
24	60064	環境社会学	オンライン同期型 オンライン非同期型	1		1			
25	71132	確率過程論	オンライン非同期型	2		2	1		1
26	71607	力学演習	オンライン同期型	3	1	4	3	1	4
27	72121	情報ネットワーク論	オンライン非同期型	3	1	4	3	1	4
28	73113	動物系統学	オンライン非同期型	1	1	2	1		1
29	74124	分析化学演習	オンライン非同期型	1		1			
30	77131	岩石学	オンライン非同期型	1		1	1		1
31	81003	水資源学	オンライン非同期型	2	2	4	2	2	4
32	81008	農学生産基礎	オンライン非同期型	1	2	3	1	2	3
33	81060	生物多様性管理学	オンライン非同期型		3	3		3	3
34	81079	森林経済学	オンライン非同期型	2	2	4	1	2	3
35	82034	食品保存学	オンライン非同期型	1	2	3	1	2	3
36	83002	海洋地球科学概論	オンライン非同期型	1	1	2	1	1	2
37	83003	海洋基礎生態学	オンライン非同期型	2		2	1		1
合計				68	61	129	47	56	103

#### 4. 授業参観記録

授業参観後に、参観者が Web 上で授業参観記録を作成した。その質問項目（記述コメントおよび選択回答）と回答の要旨を以下に示す。

##### 【教員】

**（１）参観した授業について、教員の授業方法や学生の学習形態等について、特に印象に残ったことはどんなことですか。（自由記述式）**

本年度は、オンライン授業 2 年目にあたることから、参加者の授業を参観する視点が、昨年度と比較して、より具体的な記述であった。例えば、非同期型の授業の場合、動画以外のコンテンツの組み方（課題、小テスト）、動画の長さなどに関わる記述が多くみられた。これらのコメントから、参加者の関心の高さが窺える。

**（２）授業を参観して、あなたが実施している授業方法や学生の学習形態等についてあらたに気づいたことはどんなことですか。（自由記述式）**

この項目では、参観した教員は授業方法を取り上げながら、自己の授業方法の反省点を記述するコメントが多くみられた。具体的には、資料提示の方法、学生の思考への介入方法、説明の仕方、学生へかかわる教員の姿勢などについて記述されたものが多くみられた。この設問では、他の先生の参観授業を通して、自己の授業方法と比較し、内省的に振り返る記述が多くみられた。オンライン授業 2 年目を迎え、参観者のオンライン授業に対する意欲関心が高く、「少しでも、他の授業から、学びたい」という意欲が感じられるコメントが多くみられた。したがって、一定の成果を得られたと捉えることができる。

**（３）参観した授業での授業方法や学生の学習形態等で、自分の授業にも取り入れてみたい、あなたの授業に取り入れることが可能だと思うことはどんなことですか。（自由記述式）**

本年度は、非同期型授業の公開の方が多かったことから、非同期型授業に関わる記述が多くみられた。また、参観する教員も、非同期型授業についての関心の高さが窺える内容であった。記述の多くは、非同期型授業の 1 回の授業のコンテンツの組み方、提示方法、その他の学習教材の提供方法、小テストの実施など、記述も具体的なものがほとんどであった。記述を読むと、参観教員は、これまで以上に細部にわたって観察していることがうかがえる。また、その記述は、授業への導入を想定されたものがほとんどであり、行動につながるものになることが推測される。したがって、参観者のコメントの多くは、オンライン授業に関わるティップスがほとんどであった。

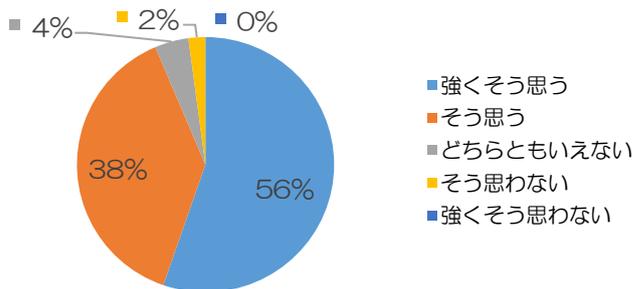
**（４）参観した授業の授業方法や学習形態について、授業担当者へのコメントがあれば書いてください。（自由記述式）**

これまでと同様に授業参観へのお礼とともに、授業のどこが良かったなどを具体的にコメントされたものが多くみられた。また、同じ教員であるという立場からのアドバイスや助言的なコメントであり、授業公開者にとって有益なものであったと考えられる。

**（５）この取組は、あなたの授業改善や教員としての意識改革に役立つものでしたか。（5 段階択一式）**

94%が肯定的な回答をしており、本取組は、意識改革に役立つものであったことが理解できる。

(5) この取組は、あなたの授業改善や教員としての意識改革に役立つものでしたか。



	度数	割合
強く思う	26	56
そう思う	18	38
どちらともいえない	2	4
そう思わない	1	2
強く思わない	0	0
	47	100

【職員】

(1) 参観した授業で、講義の教育方法や学習形態等について、特に印象に残ったことはどのようなことですか。(自由記述式)

本年度、公開された授業の多くは、非同期型授業であったことから、その授業にかかわる印象の記述が多く見られた。記述内容は、授業デザインの方法、授業資料の提示方法であった。また、オンライン授業の施行が2年目であることから、授業に関わる記述は、具体的な記述が多くみられた。例えば、授業の具体的な工夫に関わる記述、学生目線による記述である

(2) 参観した授業で、学生の様子について気がついたことはどのようなことですか。(オンライン授業を参観された方は回答不要です)

本設問については、(非同期)オンライン授業のため、学生の様子を確認することが難しいことから、コメントすることが難しい状況であり、回答が少なかった。

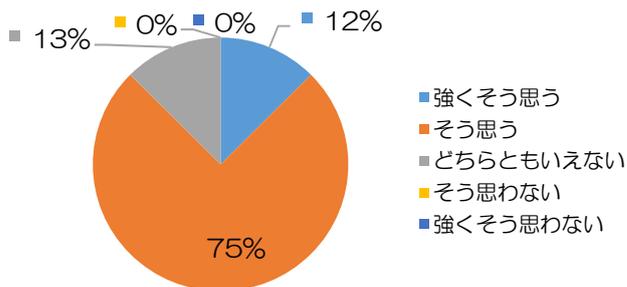
(3) 参観した授業について、授業担当者へのコメントがあれば書いてください。(自由記述式)

授業参観のお礼や、授業内容が有益であること、授業内容にかかわるコメントが見られた。また、例年の特徴と同様に、授業内容に関心があるとのコメントも多く寄せられていた。本年度はオンライン授業2年目であることから肯定的な回答の背景に、教員のオンライン授業の力量向上を示すものであるととらえることができる。本学のオンライン授業の良好さを示すものであるとも捉えることができる。

(4) 参観が行われた教室の環境の整備や設備について、学習に適していると思いませんか。(オンライン授業を参観された方は回答不要です) (5段階択一式)

この設問に対して、87%が、肯定的な回答であった。

(4) 参観が行われた教室の環境の整備や設備について、学修に適していると思いませんか。

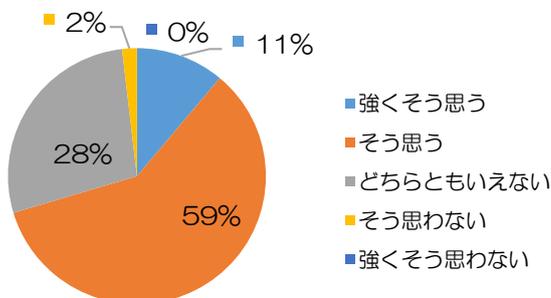


	度数	割合
強く思う	1	12
そう思う	6	75
どちらともいえない	1	13
そう思わない	0	0
強く思わない	0	0
	8	100

(5) 授業を参観して、高知大学の教育（授業）を自らの業務に関連づけて考えましたか。（5段階択一式）

肯定的回答は70%であり、昨年度と同程度だった。

(5) 授業を参観して、高知大学の教育（授業）を自らの業務に関連づけて考えましたか。

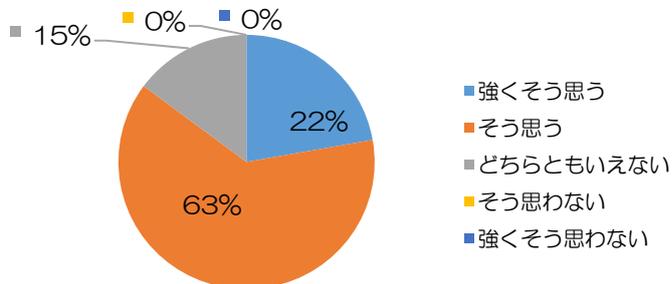


	度数	割合
強くそう思う	6	11
そう思う	32	59
どちらともいえない	15	28
そう思わない	1	2
強くそう思わない	0	0
	54	100

(6) この取組はあなたの大学教育への理解の促進や、大学職員としての自分を見つめ直す機会となりましたか。（5段階択一式）

昨年度は75%であり、本年度は85%と向上していた。

(6) この取組は、あなたの大学教育への理解の促進や、大学職員としての自分を見つめ直す機会となりましたか。



	度数	割合
強くそう思う	12	22
そう思う	34	63
どちらともいえない	8	15
そう思わない	0	0
強くそう思わない	0	0
	54	100

(7) (4)～(6)の回答の理由や、来年度の本取組の実施に向けての忌憚のないご意見・ご要望をお聞かせください。（自由記述式）

本年度の取り組みの多くは、非同期型授業の参観であったことから、非同期型授業の利点を評価するコメントが多くみられた。その利点とは、「いつでも視聴ができること」時間の制約がないことが挙げられていた。忙しい業務の中受講する職員が多いことから、今後の開催方法についても、非同期型の参観授業を一定数設置すること望ましいと考えられる。

## 5. 成果について

参観後のアンケート調査の結果から、本企画の趣旨や目標に対する成果として、次のようにまとめられる。

### 【授業参観教員】

授業参観の成果は、「あなたの授業改善や教員としての意識改革に役立つものでしたか」という設問に対して、94%の肯定的な回答が寄せられており、本取り組みは、一定の効果を得ることができていると捉えることができる。肯定的回答の要因として、オンライン授業2年目を迎えて、他の教員の授業実践から、そのノウハウを学びたいと、本事業に対して期待を寄せていたと推測することができる。結果、参観後には、参観した授業の実践を学ぶことができ、自己の授業に活用できる知識であることから、肯定的な回答が多くみられた要因であると捉えることができる。したがって、本年度の実施は、大きな成果が得られたと考えることができる。

### 【職員】

本年度の成果は、設問「あなたの大学教育への理解の促進や、大学職員としての自分を見つめ直す機会となりましたか。」から捉えることができる。この設問に対して85%の肯定的な回答を得ており、昨年度の75%から上昇しており、一定の成果を得られたと捉えることができる。

本年度は、非同期型授業の公開が殆どであったことから、時間を制約されることなく、授業を参観できたことが記述から伝わってきた。それにより、授業の細部にわたって確認されたことがうかがえた。例えば、小テストの受験、授業資料、授業内の動画教材、授業デザインなどにも目を通されたうえでの意見が多くみられた。次年度以降もSDウィークとして実施する場合、授業形態として、リアルタイムの授業だけではなく、一定数非同期型授業を入れることを検討しておく必要がある。